

2026年度学校経営シート

学校法人三重徳風学園

- 使命宣言（ミッション・ステートメント）：「私たちは、生徒の自立と社会参加を目指し、自尊感情を高める実践を追求します。」
- 価値宣言（バリュー・ステートメント）：「私たちは、生徒・保護者・職員・学校関係者とのコミュニケーションを大切にします。」

1 スクール・ミッション（本学園の存在意義・社会的役割を踏まえどのような学校の実現を目指すかを示す「目指す学校像」）

- 1 さまざまな課題・特性を持ち、「困り感」や「生きにくさ」を感じながらも頑張っ生きていこうとする子どもたちを受け入れ、仲間と共に学校生活を送る場を徹底して保障する学校（“No student is left behind.”）
- 2 生徒が「社会人として必要な基礎的・基本的な学力」と「職業人として必要な実践的・専門的な技能」を身に付け、入学時に想定されたよりも大きな成長を遂げて「自立と社会参加」を果たす学校（Self-reliance and social participation through overachievement）
- 3 生徒が「この学校で学べて良かった」、保護者が「この学校に通わせて良かった」、教職員が「この学校で勤務して良かった」と心から思える学校（We love “Tokufu.”）

2 スクール・ポリシー

（1）目指す生徒像（卒業までにどのような資質・能力を身に付けた生徒の育成を目指すかを示す「グラデュエーション・ポリシー」）

- 1 自己成長感（「できなかったことや諦めていたことができるようになった。得意だったことがもっと得意になった。」という実感）、自己効力感（「どのような問題でも、関連する知識を身に付けたり情報を得たりして努力・工夫すれば、ある程度は解決できる。自分もやればできる。」という実感）、自己有用感（「集団や社会の一員として自分は確かに役立っている。」という実感）を持った自尊感情の高い生徒（Self-esteem）
- 2 自己指導能力（その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのかを、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力）を有する生徒（Self-guidance）
- 3 ソーシャルスキル（他者と良好な関係を形成・維持していくための知識・技能）とライフスキル（社会生活・職業生活等に必要な基礎的・基本的な知識・技能）を身に付けた生徒（Social-skills and Life-skills）

（2）目指す教育課程（「目指す学校像・生徒像」を実現するためにどのような目標・内容の授業を行うかを示す「カリキュラム・ポリシー」）

- 1 「自立と社会参加」に必要な「基礎的・基本的な学力」と「実践的・専門的な技能」を身に付けることができる教育課程
- 2 「自立と社会参加」に必要な「自尊感情」を高めることができる教育課程
- 3 「自立と社会参加」に必要な「ソーシャルスキル」と「ライフスキル」を身に付けることができる教育課程

(3) 期待する入学者像（入学時にどのような生徒を積極的に受け入れるかを示す「アドミッション・ポリシー」）

1	どの学校に進学するかを決め、その学校の入学試験に合格し入学するという課題に対し、人任せにせず自分で解決しようと決心した生徒
2	自らの課題・特性により「困り感」や「生きにくさ」を感じながらも、屈することなく頑張って生きていこうと決心した生徒
3	「自分を変えたい、変わりたい」という思いで「学び直し」・「生き直し」をしようと決心した生徒

(4) 目指す職員像（職員にどのような姿勢・態度の体現を期待するかを示す「スタッフ・ポリシー」）

1	多忙な同僚を助け、役割と役割の隙間にある誰の仕事でもない仕事を自分の仕事と思って動く協働と利他の精神（Collaboration & Altruism）を体現した職員
2	スクール・ミッションの実現に向けて主体的に職能成長を続ける専門職（Profession）としての姿勢を体現した職員
3	「優しさ」と「厳しさ」を併せ持ち、「個性」を生かしつつ「同僚性」を高め、「自由」を愛し「規律」を尊ぶ姿勢（Synthetic Competence）を調和的に体現した職員

(5) 目指すコース像（どのような知識・技能を習得し、どのような人材育成に取り組むかを示す「コースマネジメント・ポリシー」）

総合コース	社会生活・職業生活に求められる基本的な知識・技能を習得し、自信を持って自立と社会参加を果たす“最強の常識人”を育成するコース
ドッグケアコース	犬の訓練・美容に関する基本的な知識・技能を習得し、動物との共生と愛護精神の向上に貢献する“ドッグマスター”を育成するコース
パソコンコース	情報社会で生きる基本的な知識・技能を習得し、学習の個性化と指導の個別化の徹底を通じて“とがったITジェネラリスト”を育成するコース
日本語コース	「学ぶための日本語」と社会参加に必要な「生きるための日本語」を習得し、希望進路を実現する“自立した日本語使用者”を育成するコース

3 学校経営上の重点目標

本学園には、高等学校通信教育の形態、教育課程の実施方法、生徒の学校生活の送り方等に関して、他ではあまりみられない特色ある仕組みや取組が次のとおりたくさんあります。それらを本学園では“徳風スタイル”と表現しています。

	徳風スタイル			
教育システム	<input type="checkbox"/> 高専併修による“ダブルスクール教育”	<input type="checkbox"/> 日本語コース設置	<input type="checkbox"/> チーム担任制	<input type="checkbox"/> 5年一貫教育(注1)
学校生活	<input type="checkbox"/> 30人学級	<input type="checkbox"/> 9時30分始業	<input type="checkbox"/> スクールバス通学	<input type="checkbox"/> 生徒寮 <input type="checkbox"/> 「徳風総合支援プログラム」による支援(注2)
授業	<input type="checkbox"/> 45分5限授業	<input type="checkbox"/> “ライフスキル”と“ソーシャルスキル”の習得	<input type="checkbox"/> 原則5日間の定期試験	<input type="checkbox"/> 徹底した補充授業(注3)
	<input type="checkbox"/> 「自立支援型デュアルシステム」の実施(注4)	<input type="checkbox"/> “心の健康と希望をはぐくむ自死予防教育”		<input type="checkbox"/> 徳風型授業研究
その他	<input type="checkbox"/> スクールカウンセラーの常駐	<input type="checkbox"/> 「三重徳風学園奨励金制度(エンカレッジ制度)」(注5)		

(注1) ドッグケアコースの生徒が徳風技能専門学校専門課程(2年間)のトリミング科に進学して知識・技能を向上させる仕組みのこと。

(注2) 特別な支援を必要とする生徒について、保護者や医療・福祉・行政等の関係機関との連携協力体制の下、当該生徒の成長を適切に支援するための取組のこと。

(注3) 学校に行きたくても行けない生徒など、やむを得ない理由で欠席を繰り返した生徒に対し、欠課時数の多い科目等の履修を可能な限り支援する仕組みのこと。

(注4) 標準的な実施方法や一部の専門高校が実施している「日本版デュアルシステム」とは異なる、本校生徒の実態等に即した拡大版インターンシップのこと。

(注5) 自らの課題・特性・環境を「バネ」にして前向きに生きていこうと頑張る生徒(例えば、アルバイトをして家計を助ける生徒、家事や家族の世話、介護等をしている生徒等)や学校指定の運動部に所属し勉学との両立に励む生徒等の支援を目的とする奨励金制度のこと。

当面、以下の3点を学校経営上の重点目標に据え、“徳風スタイル”を更に進化させていきます。

重点目標1：“フレキシブルスクール”としての更なる進化

- 本学園は令和2年度、徳風技能専門学校高等課程において、商業実務分野に属する「国際ビジネス科」に加え、文化・教養分野に属する「総合科」を新設して2分野2学科体制に拡充するとともに、“ダブルスクール教育”を可能にする徳風高等学校全日型コースとの連携制度について、令和2年度以降の入学生を対象に、年次進行で、それまでの「技能連携」（学校教育法第55条に基づき、都道府県教育委員会の指定する技能教育施設における学習を本校における職業教科の一部の履修とみなすことのできる制度）を取り止め、連携の裁量幅が格段に大きい「高専併修」（学校教育法施行規則第98条第1号に基づき、大学、高等専門学校又は専修学校等における学修を本校における科目の履修とみなし、当該科目の単位を与えることのできる制度）を新たに導入しました。
- この制度改革により設置可能となった「日本語コース」を第4のコースとして令和3年度に立ち上げ、「本格的な日本語教育を受けながら高卒資格を取得できる県内唯一の学校」として進化を図るなど、本学園は今後も、「社会の変化や地域の教育ニーズ等に応じて教育課程を柔軟に編成・実施する“フレキシブルスクール”」として進化を続けていきます。

令和元年度まで	徳風高等学校（全日型コース）	徳風技能専門学校高等課程		両校の連携制度	
		分野	学科		
	ドッグケアコース	商業実務分野	国際ビジネス科	技能連携	
	パソコンコース				
	総合コース				
令和2年度から	徳風高等学校（全日型コース）	徳風技能専門学校高等課程		両校の連携制度	
		分野	学科		
		ドッグケアコース	商業実務分野	国際ビジネス科	高専併修
		パソコンコース			
		総合コース	文化・教養分野	総合科 【令和2年度設置】	
	日本語コース【令和3年度設置】				

重点目標2：高等学校通信教育の更なる進化

- 本学園は、「徳風高等学校通信教育改革プラン」（令和6年12月13日策定）に基づき、徳風高等学校に設置する土日コース・平日サポートコースについて、令和8年度から募集を停止し、週3日通学する「3Day（スリーデイ）コース」と週1日通学する「1Day（ワンデイ）コース」に改編して募集を開始しました。

	土日コース・平日サポートコース	3Dayコース・1Dayコース
令和7年度	（1～3年次の生徒及び4年次以上の生徒が在籍）	○諸準備（広報、教育課程編成、環境整備）
令和8年度	○募集停止 （2・3年次の生徒及び4年次以上の生徒が在籍）	○募集開始 ○学則変更 （1年次の生徒が在籍）
令和9年度	（3年次の生徒及び4年次以上の生徒が在籍）	（1・2年次の生徒が在籍）
令和10年度	○通信教育連携協力施設（浅井事務所）との賃貸契約解除。 ○修業年限を超える生徒にどちらかの新コースへの転籍を勧告。 ○土日コース・平日サポートコース廃止	○コース改編完了 （1～3年次の生徒が在籍）

- 土日コース・平日サポートコースの教育課程・学習環境等の刷新を図る「3Dayコース」・「1Dayコース」への改編を着実に実施することにより、さまざまな課題・特性を持ち、「困り感」や「生きにくさ」を感じながらも頑張っている子どもたちが、毎日通学しなくても「自尊感情」を向上させ、卒業後に「自立と社会参加」を果たすことができるよう、本学園の高等学校通信教育を進化させ、新たな“徳風スタイル”を築いていきます。

重点目標3：“働き方改革”の更なる進化

- 本学園は令和2年10月、「働き方改革アクションプラン」を策定しました。同プランでは、「全教職員がワークライフバランスを適切に確保し、生き生きと働くことができる労働環境を整備することは、本学園の円滑な学校経営と教育活動の独自性・卓越性を持続していくための基盤である。」との基本理念の下、単に労働時間・業務量の縮減や教職員定数の改善等を図ることだけに主眼を置くのではなく、「全教職員が日々の生活の質と自らの指導力・人間力を高めながら、豊かで充実した職業人生を送り、円滑な学校経営と効果的な教育活動を行うことができるようにするための時間的・精神的な『ゆとり』を確保すること」を目的にして、本学園独自の「働き方改革」に取り組んできました。
- 「働き方改革アクションプラン」に示した20本の改革プランは、内容別に「やめる」「減らす」「変える」「始める・つくる」の4つに、実施時期別に「令和2年度中に実施」「令和3年度中に実施」「令和5年度末までに実施」「令和6年度以降に実施」の4つにそれぞれ区分し、概ね計画どおり実施してきました。
令和4年8月には「働き方改革推進プロジェクト」を立ち上げ、過重労働防止、多忙化解消、職員満足度向上及び健康経営促進を図る上で最も重要かつ緊急を要するとして改革プラン12「寮監業務の抜本的改革」及び改革プラン16「1年単位の変形労働時間制の導入」に特に注力し、令和6年度に両プランを実施しました。さらに、令和7年度には改革プラン20「時間年休の導入」を実現したところです。
今後も、引き続き本学園職員の労働実態等を踏まえ、必要な「働き方改革」を進めていきます。

		「働き方改革アクションプラン」(令和2年10月策定)	
		令和2～5年度	令和6年度以降
やめる	改革プラン 1：教員の急な欠勤に伴う時間割変更の取止めと自習授業の実施		
減らす	改革プラン 2：土日コースのスクーリング時数削減 改革プラン 3：広報活動の実施回数削減 改革プラン 4：除草作業の実施回数削減		
変える	改革プラン 5：文書・チラシ等の折込作業等の機械化 改革プラン 6：2学期三者懇談会の対象生徒の制限 改革プラン 7：オンライン授業（金曜4限）を含む時間割の編成・実施 改革プラン 8：職員室の机配置の一部変更 改革プラン 9：広報チラシ等作成業務の完全業者委託 改革プラン 10：教員間の交渉による時間割の一部変更 改革プラン 11：会議革命 改革プラン 12：寮監業務の抜本的改革		改革プラン 13：授業時間の一律標準化
始める つくる	改革プラン 14：電話対応時間の設定と電話自動音声システムの導入 改革プラン 15：「学校閉業日」の導入		改革プラン 16：1年単位の「変形労働時間制」の導入 改革プラン 17：Wi-Fi環境の整備と「生徒一人一台タブレット」の導入 改革プラン 18：教育課程を基にした各教科の教員定数と非常勤講師の担当授業時間数の算定 改革プラン 19：各種特別手当の支給 改革プラン 20：時間年休の導入

4 本年度の重点取組と自己評価

重点取組	取組内容・方法等	自己評価
<p>1 “徳風スタイル”の更なる進化</p>	<p>(1)「あるべき高等学校通信教育」の追求 何かで「困り感」や「生きにくさ」を抱く子どもたちが、毎日学校に通わなくても、「小中学校の学習内容を自分のペースで学び直したい。」「ありのままの自分でいられる安心感の中で、学校生活を心から楽しみたい。」「勉強と就労を両立させ、経済的に自立した高校生活を送りたい。」などの思いや願いを持ち続け、個性的で充実した学校生活を送り、卒業後は「自立と社会参加」を果たしている。そんな姿の実現を目指す“高等学校通信教育”を、新たに立ち上げる「3Day コース」・「1Day コース」の中で追求していきます。</p> <p>(2)「自立支援型デュアルシステム」の継続実施 インターンシップの標準的な実施方法や一部の専門高校が実施する「デュアルシステム（実務・教育連結型人材育成システム）」とは異なる、本学園生徒の実態等に即した「自立支援型デュアルシステム(自称)」を、導入3年目となる本年度は徳風技能専門学校高等課程の専門科目「インターンシップ」の授業として2年次生を対象に実施します。</p> <p>(3)「徳風型授業研究」の計画的実施 授業力の向上と真の教育専門職としての職能成長を図るため、月1回水曜日を「レッスンスターディーデー」と銘打ち、一人の教員が行う研究授業を全教員が本校独自開発の授業評価シートを用いて参観し、授業後は授業者と参観者が研究協議を行う「徳風型授業研究」を、導入3年目となる本年度も計画的に実施します。</p> <p>(4)「徳風総合支援プログラム」の積極的展開 特別な支援を必要とする生徒への指導・支援を更に充実させるため、特別支援教育コーディネータを担うスクールカウンセラー（公認心理士）を中心に、学年主任・担任との連携・協働等を通じた校内体制を強化するとともに、福祉・医療等関係機関との連携協力体制の強化を図ります。</p> <p>(5)「心の健康と希望をはぐくむ自死予防教育」の計画的実施 生涯にわたるメンタルヘルスの基礎づくりを目的にして、「自死の危険とその対応について正しい知識を身に付けている生徒」、「自分が心の危機に陥ったときに適切な助けを得ることができる生徒」、「友人が心の危機に陥ったときに“ゲートキーパー”（気づき、声をかけ、話を聴き、必要な支援につなげ、見守る人）になることができる生徒」の育成を目指す「心の健康と希望をはぐくむ自死予防教育」を、専門家の協力を得ながら計画的・系統的に実施します。</p>	<p>(年度末に記入)</p>
<p>2 “組織運営”の更なる進化</p>	<p>(1) 校内組織とその運営方法の改革 「3Day コース」・「1Day コース」への改編、異校種2校を設置する本学園全体のガバナンス機能の強化及び“徳風スタイル”による学校経営・教育活動の「持続可能性の維持」から「発展可能性の追求」への進化を図るため、以下のとおり校内組織とその運営方法を改革します。 ア 「3部制」（高等部・専修部・事務部）の導入と各部長によるマネジメント機能の強化 イ 「専決」を可とするなど教頭・主幹教諭のエンパワメント促進と負担軽減 ウ 「専決」を可とするなど各主任のエンパワメント促進と「目標管理型分掌・コース・学年経営」の徹底 エ 専門課程主任の廃止と主幹教諭によるマネジメント機能の強化 オ 高等学校通信教育担当者の専任化</p>	

	(2) 事務体制の構築 令和6・7年度における複数の事務職員の退職等による学校事務全般の混乱・停滞が生じないよう、新任の事務職員の育成支援等を通じて盤石な事務体制を構築します。	
3 “働き方改革”の更なる進化	(1) 「1年単位の变形労働時間制」の運用改善 令和6年度に導入した「1年単位の变形労働時間制」について、その運用方法を見直し、本学園職員の労働実態に即した新たな運用方法の定着を目指します。	
	(2) 「働き方改革」に係る新制度の運用改善 令和7年度に導入した「勤務時間割振調整」の取組について、その調整ルールを見直し、本学園職員の労働実態に即した新たな調整ルールの定着を目指します。	

5 本年度の計画と自己評価

以下の各表において、「現状と課題」欄には当該項目に関する現在の状態と何に取り組む必要があるかについて分析した結果を、「目標（目指す状態）」欄には実現したい状態を、「実践内容」欄には目標（目指す状態）を実現するために本年度実施する内容を、「評価指標」欄にはどのような状態になれば概ね満足と自己評価できるかという指標を、「次年度行動計画」欄には評価結果を踏まえた次年度の計画を、それぞれ記入しています。

徳風高等学校全日型コース・徳風技能専門学校高等課程

(1) 教育活動

ア 学習指導

現状と課題	常勤教員が少なく、授業時間中は他の業務で授業準備に時間を割くことが難しい状況ではあるが、令和6年度から、月1回水曜日を「レッスンスターディーデー」と銘打ち、一人の教員が行う研究授業を全教員が本校独自開発の授業評価シートを用いて参観し、授業後は授業者と参観者が研究協議を行う「徳風型授業研究」を始めたところである。今後もこの取組を継続し、学習指導に関する新たな“徳風スタイル”として定着させる必要がある。		
目標 (目指す状態)	知識・技能の習得を目指す授業と、知識・技能を活用して問題解決等を図る「知識活用型授業・課題解決型授業」がバランスよく展開されており、生徒が自己成長感・自己効力感を実感しながら学力を向上させている状態を目指す。		
実践内容	本学園に適した「校務支援システム」の導入・構築	自己評価	(年度末に記入)
	月1回の研究授業・研究協議を行う「レッスンスターディーデー」の継続実施		
	全教科・科目対象の授業満足度調査の継続実施（非常勤講師担当授業を含む。）		
評価指標	3Dayコース・1Dayコースの新設に伴う「学習評価要領」の改定		
評価指標	・生徒満足度調査において「学力が向上した」と回答した生徒7割以上 ・職員満足度調査において「授業力が向上した」と回答した教員8割以上		
次年度行動計画	(年度末に記入)		

イ 生徒指導

現状と課題	生徒指導に関する取組への理解・姿勢に教員間格差がみられるため、徹底した共通理解・共通実践と学び合いが必要である。生徒については、SNSを介したグループ内・間トラブルへの対応や、特に女子生徒に対する個別相談の充実を継続する必要がある。
-------	--

目 標 (目指す状態)	全教員が生徒の自己指導能力(その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのか、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力)を高める必要性について深く共通理解し、全教員の総意で決定した取組を共通実践している状態を目指す。		
実 践 内 容	全教員が生徒指導の基本は生徒理解であることを深く認識し、業間・昼休み・放課後における職員室内での生徒に関する情報共有を習慣化する。	自己評価	(年度末に記入)
	「指導の在り方を学び合う教員集団づくり」を進めるため、OJTの機会をつくる。 教員経験の少ない教員等が、「優しさ」と「厳しさ」を併せ持ち、「個性」を生かしつつ「同僚性」を高め、「自由」を愛し「規律」を尊ぶ姿勢を調和的に体現した教員に成長できるよう、ベテラン教員がメンター的役割を担う人材育成に取り組む。		
評 価 指 標	・問題行動による特別指導件数年間10件以内 ・生徒満足度調査において「適切な生徒指導が行われている」と回答した生徒8割以上		
次年度行動計画	(年度末に記入)		

ウ 進路指導

現 状 と 課 題	進路選択が依存的で、自らの努力と責任で進路実現を果たそうとする姿勢に欠ける生徒が多い。1年次から段階的に進路意識を高め、キャリア発達の促進を着実に図ることができるよう、3年間の系統的な進路指導計画を継続的に改善しながら、全教員による共通理解・共通実践が必要である。		
目 標 (目指す状態)	生徒が必要な情報を得たり教員・保護者等と適宜相談したりしながら、自分の進路について主体的に考え、行動し、自らの努力と責任で進路を決定する力を身に付けている状態を目指す。		
実 践 内 容	進路指導に関する年間指導計画について、真に必要な取組を精選するなどして3年間を見通した計画的・系統的かつ効果的な計画となるよう見直す。	自己評価	(年度末に記入)
	引き続き毎学期に「キャリア教育週間」を設定し、企業・上級学校を招いた進路ガイダンス等の各取組への生徒の参加意欲を喚起しながらキャリア発達を促進する。 高校生向け求人票管理システム「HANDY」を新たに導入し、同システムで得られる情報を希望進路実現のために自主的・主体的に活用するよう指導する。 対象生徒全員に単位認定できるよう「自立支援型デュアルシステム」の早期準備と計画的実施		
評 価 指 標	・希望どおり進路実現を果たした生徒95%以上 ・生徒満足度調査において「適切な進路指導が行われている」と回答した生徒8割以上		
次年度行動計画	(年度末に記入)		

エ 保健指導

現 状 と 課 題	令和4年度に新たな校内組織として「保健部」を設置し、保健主事と養護教諭が常駐して関係業務に従事する環境を整えたところであり、同部が全教職員の協力の下、保健指導と健康教育に関するセンター的機能を発揮し続けていく必要がある。		
目 標 (目指す状態)	生徒一人ひとりが心身の健康を保持しながら安心して学校生活を送ることができるよう、特別な支援を必要とする生徒に関する校内ケース会議等が適宜開かれ、当該生徒に関する必要な情報を全教員が共有し、適切な指導・対応が行われている状態を目指す。		
実 践 内 容	昨年度途中から実施している「心の健康と希望をはぐくむ自死予防教育」を引き続き実施し、保健指導担当内容を計画通り実施する。	自己	

	新企画の「カウンセリング体験」「メンタルスケール」の実施結果を日々の生徒理解、生徒対応に効果的に活用できるようにする。	評価	(年度末に記入)
	在籍生徒の特別支援に関する実態を数値化し、本校生徒に有効な対応について検討・提案して日々の生徒対応に繋げる。		
評価指標	生徒・保護者満足度調査において「適切な保健指導が行われている」と回答した生徒・保護者各8割以上		
次年度行動計画	(年度末に記入)		

オ 安全指導

現状と課題	近年、スマートフォンやSNSの普及など生徒を取り巻く環境の変化や学校を標的とした新たな危機事象も懸念されており、刻々と変化する社会状況を受けて発生する様々な危険への対応が迫られている。		
目標 (目指す状態)	防災対策、避難訓練、薬物乱用防止教室等を適時・適切に実施し、生徒が進んで安全で安心な社会づくりに参加し、貢献しようとする態度を身に付けている状態を目指す。		
実践内容	「危機管理マニュアル」の全体整備 安全点検の各学期1回実施と点検結果に応じた補修・修繕等の早期改善措置 事前予告なしの避難訓練の継続実施	自己評価	(年度末に記入)
評価指標	生徒満足度調査において「適切な安全指導が行われている」と回答した生徒9割以上		
次年度行動計画	(年度末に記入)		

カ 特別活動

現状と課題	生徒会役員が主導する生徒会活動の活性化により、生徒主体の学校行事(体育祭・文化祭)が実施できている。その反面、友人関係が希薄化しており、自主的・主体的に考え行動する姿勢や社会性に欠ける生徒が多い。今後は、互いにコミュニケーションを円滑に図りながら楽しく学校生活を送れるよう、生徒の対人コミュニケーション・スキルを更に向上させる必要がある。		
目標 (目指す状態)	多くの生徒が学校行事、生徒会活動等に積極的に取り組み、学校・学級への所属感と集団の一員として自己有用感を実感しながら楽しく学校生活を送っている状態を目指す。		
実践内容	生徒総会を1学期中に開催する。 1年間を通してコース対抗の行事を企画・実施する。 ボランティア活動等に積極的に参加する。	自己評価	(年度末に記入)
評価指標	生徒満足度調査において「学校行事や生徒会活動は有意義なものになっている」と回答した生徒8割以上		
次年度行動計画	(年度末に記入)		

キ 部活動

現状と課題	年間を通じて活動している部は少ないが、東海・全国大会に出場する生徒は少ない。部活動の更なる活性化に向けた取組が必要である。		
目標 (目指す状態)	多くの部が活動し、その成果が学校行事や各種大会で発表・披露されることで学校に活気が溢れ、生徒の学校満足度を高めている状態を目指す。		
実践内容	生徒会主催の部長会議を開く。 生徒会予算の有効活用 各部の紹介動画を作成・活用するなどして新入部員勧誘活動を活性化させる。	自己評価	(年度末に記入)

評価指標	生徒満足度調査において「部活動は活発に行われている」と回答した生徒6割以上	価	
次年度行動計画	(年度末に記入)		

ク 総合コース

現状と課題	生徒の満足度は高いが、慢性的に生徒数が少数であり、コースとしての方向性を明確にし、特色化・魅力化を図る必要がある。		
目標 (目指す状態)	明確化された「目指すコース像」とコースとしての存在意義の共通理解の下、生徒が課題研究を中心とした学習活動に意欲的に取り組み、希望進路を実現して社会参加を果たしている状態を目指す。		
実践内容	総合コースの「目指すコース像」に適した教育課程の編成・実施（特色ある選択講座の増開設、創意工夫を生かした学習内容・方法の改善等）	自己評価	(年度末に記)
	優れた専門性を有する外部人材を特別非常勤講師として活用した選択講座の計画的実施。		
評価指標	生徒満足度調査の結果、「選択講座の授業に概ね満足」以上と回答した生徒8割以上		
次年度行動計画	(年度末に記)		

ケ ドッグケアコース

現状と課題	生徒によって能力や目的意識の差が大きく、個々に対応した指導方法を随時検討し、実践する必要がある。また、高い目的意識を持って本校に入学した生徒に対しても、その期待に応え、希望進路を実現できるよう、指導体制の充実と更に高度で専門的な指導の充実を図る必要がある。		
目標 (目指す状態)	全職員が「目指すコース像」について共通理解したうえで共通実践を徹底し、生徒が生き生きと学習活動に取り組み、希望する進路を実現している状態を目指す。		
実践内容	コース担当者間の「ベクトル合わせ」（方向性の確認、情報の共有化、報連相の常態化等）のため、毎月1回コース会議を定期開催する。	自己評価	(年度末に記)
	コース満足度を更に向上させるためには何が必要かを調査するため、生徒対象のアンケート調査を実施する。		
	地域のイベントや校外での活動に年2回以上参加する。		
	昨年度新たに実施した、トリマーやトレーナーの仕事に従事している卒業生による講話を継続実施する。		
	検定の合格率を上げるため、長期休業日に実施している集中実習のあり方を見直すなど、個に応じた指導の在り方を検討し実践する。		
評価指標	希望どおり進路実現を果たした生徒9割以上		
	生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒9割以上		
次年度行動計画	(年度末に記)		

コ パソコンコース

現状と課題	入学者が減少傾向にあり、教育課程を抜本的に見直す必要がある。また、生徒間で検定試験の合格状況に差があることから、全生徒に検定試験合格の目標設定が必要である。さらに、生徒の得意分野における能力を伸ばさせるため、自主的に学習できる環境を整える必要がある。		
目標 (目指す状態)	新たな教育課程の実施が功を奏し、入学者が増回傾向にある状態を目指す。また、全生徒が複数の検定試験を受験して合格を果たし、個別に設定した検定試験合格に向けた目標を達成できるよう、自主的・主体的に学習している状態を目指す。		
実践内容	デザイン・ゲーム制作・動画作成の実習内容を新たな指導内容としてシラバスに組み入れる。	自己	(年度末に記)

	資格取得に向けた指導を強化する。 教員間の情報共有と共通理解を図りながら、アプリケーションソフトの選定等を計画的に行う。	評価
評価指標	日本情報処理検定3級以上の取得生徒7割以上 生徒満足度調査における「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒9割以上	
次年度行動計画	(年度末に記)	

サ 日本語コース

現状と課題	日本語の習得と高等学校卒業を実現する画期的なコースとして、日本語の学習と普通教科の学習の両立を図るための指導方法を実践研究するとともに、効果的に広報活動を行い、コース経営の更なる活性化と入学者増を図る必要がある。	
目標 (目指す状態)	進学希望の生徒は日本語能力試験(JLPT)の「N2」、就職希望の生徒は「N3」にそれぞれ合格して希望進路を実現している状態を目指すとともに、日本語指導を必要とする外国籍生徒等に対する後期中等教育の在り方について、本コースがその教育モデルとして広く認知されている状態を目指す。	
実践内容	2年生全員の「N4」以上合格、3年生全員の「N3」以上合格を目指した指導の強化	自己評価
	2年次以降の普通教科・科目の学習支援継続	
	2年生のデュアルシステム実施に向けたビジネス日本語及びビジネスマナーに関する指導の強化	
	地域社会への適応と共生を目指した地域住民等との交流機会の確保	
	各市の進路ガイダンスへの積極的参加による日本語コースの周知	
日本語コース入学者増を目指したインパクトのある広報チラシの新規作成		
評価指標	2年生全員の「N4」以上合格、3年生全員の「N3」以上合格	
	3年生全員の希望進路実現	
	次年度日本語コース入学生15人以上 生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒10割	
次年度行動計画	(年度末に記入)	

(2) 学校運営等

ア 教育環境の整備・管理

現状と課題	防火対策に係る工事を進めるとともに、設備更新や改修・修繕を要する箇所を洗い出し、計画的に対策を講じていく必要がある。	
目標 (目指す状態)	生徒・職員が安全な環境の中で安心して学校生活を送れるよう、施設設備等に起因する事故を防止するとともに、施設設備管理の瑕疵による賠償責任を負うことがないよう、必要な修繕・工事や環境衛生検査の計画的実施等により適切に教育環境が整備され、維持管理されている状態を目指す。	
実践内容	安全点検の結果に基づく必要な修繕の早期実施の継続	自己評価
	優先順位を付けた修繕・工事の計画的実施の継続。(防火対策に係る工事を含む。)	
	ICTに関わる教育備品等の継続導入及びリースによる教員のPCシステムの導入	
	照明のLED化の計画的実施 治安対策として木の剪定の継続実施	
評価指標	計画した工事の8割以上実施	

次年度行動計画	(年度末に記入)
---------	----------

イ 広報・生徒募集

現状と課題	教育活動の特色化・魅力化に向けた経営努力が入学者増に繋がりにくい状況が続いており、特に伊賀地区、松阪地区及び滋賀県からの入学者が減少傾向にある。今後は、「徳風スタイル」による学校経営が県内外の中学校に一層周知され、入学者増に繋がる広報の在り方を追求する必要がある。	
目標 (目指す状態)	「中学生の若い感性に響き、本学園への入学意欲を喚起する広報」・「保護者の注目を集め、本学園への期待を高める広報」・「中学校教員の進路指導に役立ち、本学園への信頼・信用を高める広報」を目指した「広報部」主導の広報・生徒募集活動が功を奏し、毎年度、募集定員を概ね充足する入学者数を維持している状態を目指す。	
実践内容	全国的に展開する広域通信制高校の動向を背景に、「3Dayコース」・「1Dayコース」の教育内容・方法等の特色・魅力を分かりやすく効果的にアピールする。	自己評価
	各コース等の魅力や改善点等を精査のうえ、「中学校訪問」の効果的な実施に向けた事前研修を計画・実施する。	
	Instagram以外の広報媒体の可能性を探り、SNSを通じた広報活動の多様化を図る。	
	中学校の入試説明会等で役立つ広報グッズ(バナースタンド等)を購入する。	
評価指標	令和9年度全日型コース及び3Day・1Dayコース入学生前年度比各1割増	
次年度行動計画	(年度末に記入)	

ウ 組織運営

現状と課題	小規模であるが高等学校と専修学校の2校を管理職3名・常勤教員20名・事務職員2名が非常勤職員等の協力を得ながら運営しており、必然的に各教員の担当職務の多様化・複雑化は避けられず、ガバナンス機能の充実、エンパワメントの促進、効率的な情報共有、働き方改革の推進と負担軽減等を図る必要がある。	
目標 (目指す状態)	職員一人一人が「報告・連絡・相談・確認」を必要に応じて適切に行いながら職務を遂行し、「誰の仕事でもない仕事は自分の仕事」、「他者のために尽くすことが自分の仕事」などと考え行動する「協働」の姿勢と「利他」の精神を体現した職員が多い状態を目指す。	
実践内容	「3部制」(高等部・専修部・事務部)の導入と各部長によるマネジメント機能の強化	自己評価
	「専決」を可とするなど教頭・主幹教諭のエンパワメント促進と負担軽減	
	「専決」を可とするなど各主任のエンパワメント促進と「目標管理型分掌・コース・学年経営」の徹底	
	専門課程主任の廃止と主幹教諭によるマネジメント機能の強化	
評価指標	職員満足度調査で「報告・連絡・相談・確認は概ねできた」と回答した職員65%以上	
次年度行動計画	(年度末に記入)	

エ 学校満足度

現状と課題	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査を引き続き実施し、その結果を学校運営改善に役立てる取組は定着しているが、特に職員満足度の低下・上昇・停滞が数年スパンで続く傾向がみられるため、満足度が高いレベルで安定する状態を確保・維持する必要がある。	
目標 (目指す状態)	生徒が「この学校で学べて良かった」、保護者が「この学校に通わせて良かった」、教職員が「この学校で勤務して良かった」と思う状態を目指す。	
実践内容	満足度向上の阻害要因を分析し、その結果を踏まえつつ必要な具体的対策を講じる。	自己
	生徒会活動の活発化が著しいことから、民主的な手続きを経たうえでの生徒会からの	
評価指標	(年度末に記入)	

	要望は、引き続きその実現に向けて真摯に対応する。 令和6年度から導入した「1年単位の变形労働時間制」の過去2年間の状況を踏まえ、より効率的に業務に従事できる合理的な労働日・労働時間配分となるよう、労働日・労働時間・休日の設定を見直す。	評価	
評価指標	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査で「本学園に概ね満足している」と回答した生徒・保護者・職員各8割以上		
次年度行動計画	(年度末に記入)		

徳風高等学校3Dayコース・1Dayコース

現状と課題	当該2コースの1期生全員が安心して充実した学校生活を送ることができるよう、一人ひとりの背景・特性等を理解し、心情に寄り添いながら生徒理解を深め、必要な指導・支援を適時・適切に行っていきたい。		
目標 (目指す状態)	生徒全員が、勉学と就労等の両立を図りながら単位修得を果たし、毎日登校しなくても学校生活を謳歌している状態を目指す。		
実践内容	1期生の教育課程を計画的に実施する中で気付いた諸課題を的確かつ迅速に解決し、コース経営のノウハウを蓄積する。	自己評価	(年度末に記入)
	「学び直し」の学習活動に関する指導・支援の在り方を研究テーマに設定し、「指導の個別化」と「学習の個性化」を効果的に進める観点から担当者全員で協同実践する。		
	次年度の入学生を円滑に受け入れ1・2期生が共に安心して学校生活を送れるよう、必要な人的・物的環境整備を進める。 徳風高等学校学則を変更し、収容定員を拡大する。		
評価指標	生徒・保護者対象の各満足度調査で「本学園に概ね満足している」と回答した生徒・保護者各8割以上		
次年度行動計画	(年度末に記入)		

徳風高等学校土日コース・平日サポートコース

現状と課題	両コースともに「不活発生」が多い現状にあるが、令和8・9年度中の全員卒業に向けて必要な指導・支援を積極的に行い、令和9年度を最後に両コースの廃止へと円滑に導く必要がある。		
目標 (目指す状態)	生徒全員が「自立と社会参加」を目指し、毎日登校しなくても勉学と就労等の両立を図りながら単位修得・進級・卒業を果たしている状態を目指す。		
実践内容	面接指導の展開方法を工夫し、授業出席生徒数を増やす。	自己評価	(年度末に記入)
	両コースの廃止と「3Dayコース」・「1Dayコース」への改編に伴う混乱が生じないよう、在籍生徒への徹底周知と履修への意欲喚起を継続する。 「不活発生」の状況を精査し、必要な対応・指導を行う		
評価指標	生徒対象の満足度調査で「本校に概ね満足している」旨回答した生徒7割以上		
次年度行動計画	(年度末に記入)		

徳風高等学校技能連携校コース

現状と課題	技能連携校2校（鴻池学園高等専修学校及び大阪技能高等専修学校。以下「当該2校」という。）は高等学校通信教育規程に基づく通信教育連携協力施設であり、当該2校と良好な連携協力体制を築きながら、適正かつ効果的に通信教育を実施する必要がある。		
目標 (目指す状態)	当該2校の生徒一人ひとりが専門的な知識・技能を習得しながら、本校での単位修得・進級・卒業を果たしている状態を目指す。		
実践内容	高等学校通信教育規程第14条第1項の規定に基づく情報公開を引き続き行う。	自己評価	(年度末に記入)
	連携協力会議を引き続き年1回以上実施する。		
	引き続き生徒対象の満足度調査を実施し、改善の基礎資料とする。		
評価指標	生徒対象の満足度調査で「本校の面接指導・添削指導・試験に概ね満足している」旨回答した生徒7割以上		
次年度行動計画	(年度末に記入)		

徳風技能専門学校専門課程

現状と課題	徳風高等学校の卒業者に限定する受入方針を令和3年度入試から改め、他校の卒業者等も入学定員の5割を上限に受け入れることとしているが、入学者は極めて少ない状況にある。今後は、学生募集活動に一層注力するとともに、改正した学則に基づく教育課程を編成・実施する必要がある。		
目標 (目指す状態)	三重県立高等学校への広報・募集活動が功を奏し、徳風高等学校からの入学者と併せて入学定員を充足する入学者数を継続的に確保している状態、及び改正した学則に基づき、専門課程修了後に大学編入を希望する学生に適正に対応できる教育課程を編成・実施している状態を目指す。		
実践内容	改正学則の新たな規定に基づき、修了に必要な授業時数・単位数を確保する。	自己評価	(年度末に記入)
	入学者増に向けた広報活動（オープンキャンパス、高校訪問等）を積極的に展開する。		
	できる限り早く広報関係の配付物（パンフレット・リーフレット等）を完成させる。		
	皮膚や被毛の美容を学ぶ科目及び愛玩動物飼養管理士の資格取得を目指す科目をトリミング科の教育課程に位置付ける。		
	ブリーダー等訪問者が多いため、清掃の徹底により実習環境を整え、接遇マナーやコミュニケーション・スキルの向上のための指導を強化する。		
評価指標	学生対象の満足度調査で全学生が「専門課程に概ね満足」と回答 令和9年度新入学生10人以上		
次年度行動計画	(年度末に記入)		

6 本年度の学校関係者評価

(年度末に記入)

7 次年度の主な行動計画

(年度末に記入)